

高知県長期漁海況予報

平成17年下半期(8~12月)の漁況・海況の予想

平成17年8月発行 高知県水産試験場

このたび、平成17年8月から12月を予測期間とした「平成17年度第1回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁況海況予報会議」が横浜市で開催され、国、高知県及び関係都道県等の最新の調査結果から長期予報が作成されましたので、高知県関係を中心にその概要をお知らせします。

概 要

海況

黒潮：本州南岸の黒潮は8~10月はC型流路で推移する。11月以降にD型流路を経てN型流路に移行する。

沿岸水温：「平年並み」~「高め」。

漁況

マイワシ： 好漁の前年並から下回る

カタクチイワシ： 前年を上回る

ウルメイワシ： 前年を上回る

マアジ： 前年並みから下回る

サバ類： ゴマサバは前年を上回る。マサバは低水準

* 詳しい内容については次ページ以下をご覧ください。

海況

【海況の経過（平成17年1月～6月）】

1. 黒潮

2月上旬まで足摺岬沖で「接岸」、室戸岬沖で「やや離岸」の状況が継続しました。2月前半に発生した都井岬沖の小蛇行の発達・東進にともない2月後半から足摺、室戸両岬沖で離岸傾向となりました。3月から4月は足摺岬沖、室戸岬沖ともにおおむね「やや離岸」で推移しました。その後5月中旬に両岬沖で「接岸」基調となり、6月中継続しました。

表1 足摺・室戸両岬南沖黒潮流軸位置階級区分

階級	範囲(マイル)
接岸	< 25
やや離岸	25、< 45
かなり離岸	45、< 65
著しく離岸	65

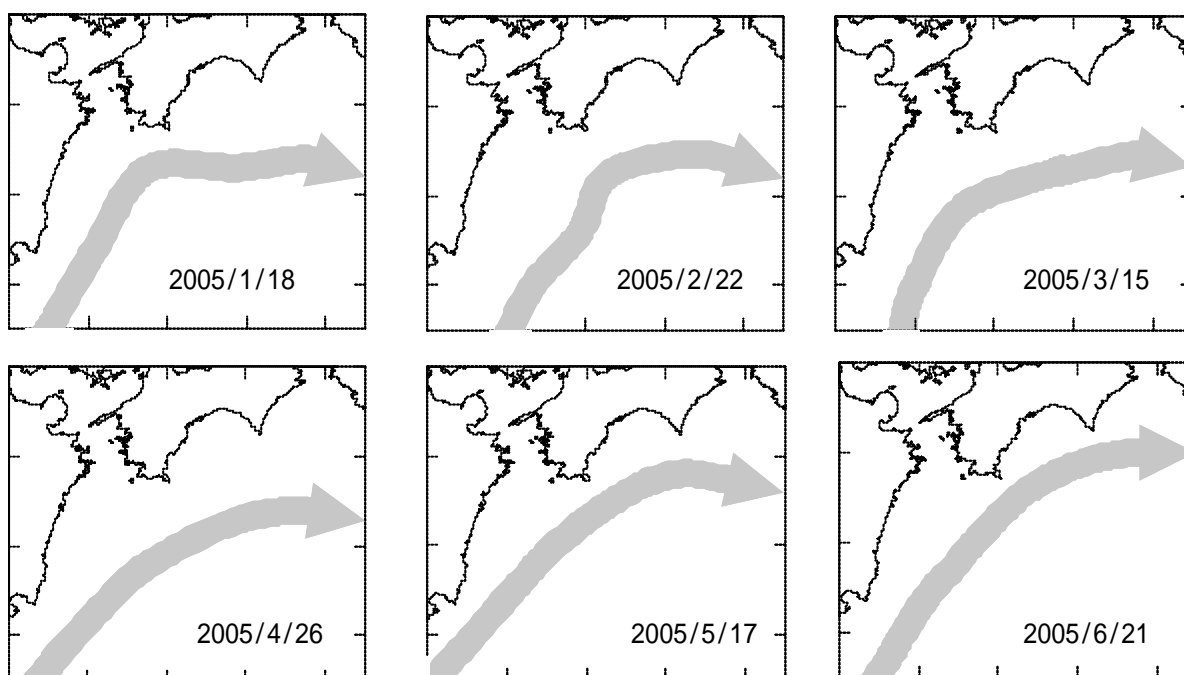


図1 NOAA 衛星海表面水温画像等から推定した黒潮流軸位置

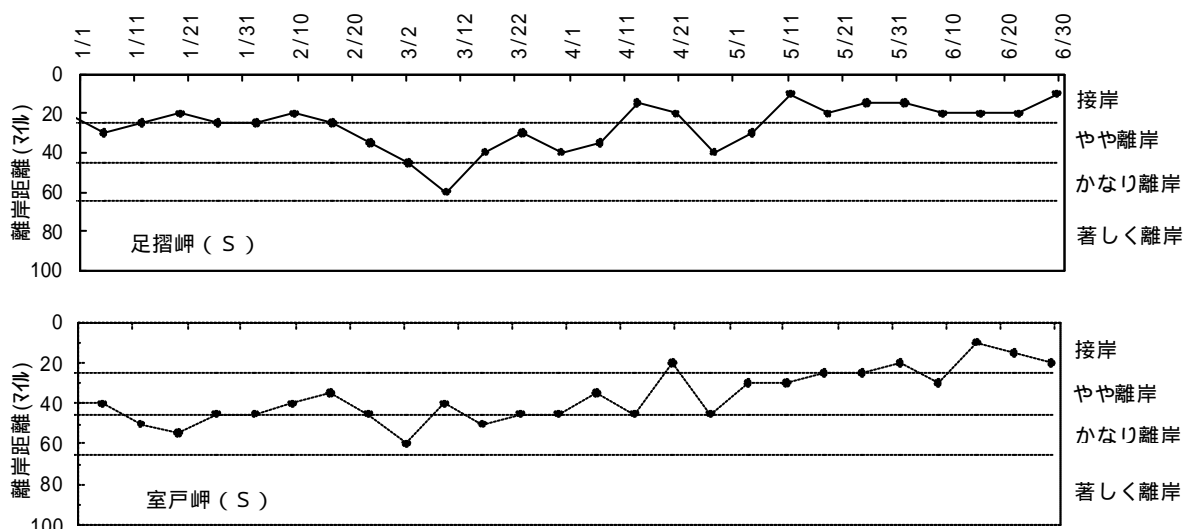


図2 足摺岬および室戸岬からの黒潮流軸離岸距離 (高知県漁海況速報より)

2. 沿岸海況

土佐湾定線海洋観測結果による沿岸水温は、前半は平年並みから高め傾向で推移しましたが、後半には低め傾向となりました。

月別に見ると、1月は全層で「平年並み」、2月は0m～100mで「平年並み」、200mで「やや低め」で推移しました。3月は0m～100mで「やや高め」、200mで「かなり低め」、4月は0m～100mで「やや低め」、200mで「かなり低め」に推移しました。5月は0mで「平年並み」、50m～200mで「やや低め」、6月は0mで「平年並み」、50mで「かなり低め」、100m、200mで「著しく低め」となりました。

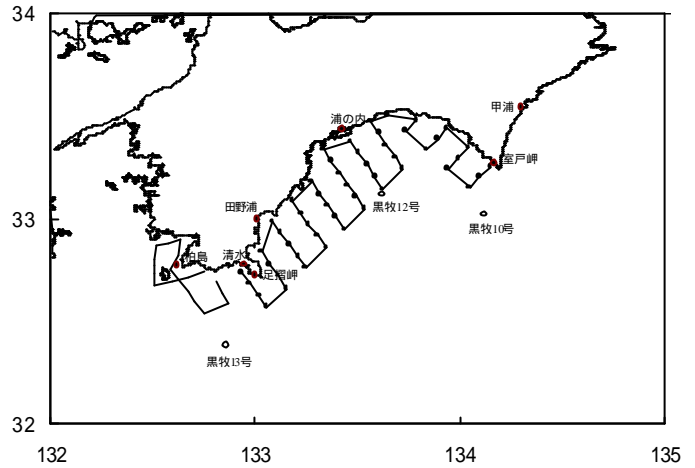


図3 土佐湾観測点

表2 土佐湾平均水温の平年偏差

水深	0m	50m	100m	200m
平成17年1月	+-	+-	+-	-+
平成17年2月	-+	-+	+-	-
平成17年3月	+	+	+	--
平成17年4月	-	-	-	--
平成17年5月	-+	-	-	-
平成17年6月	+-	--	---	---

表3 土佐湾水温平年偏差の階級区分

記号	呼称・内容	偏差範囲
+++	著しく高め	2.2 以上
++	かなり高め	1.3~2.2
+	やや高め	0.6~1.3
+-	平年並(+基調)	0.0~0.6
---	著しく低め	-2.2 以下
--	かなり低め	-1.3~-2.2
-	やや低め	-0.6~-1.3
-+	平年並(-基調)	0.0~-0.6

3. 特異現象

海況

- ・6月の土佐湾平均水温において、100、200mは過去最低水温、50mは過去3番目の低水温でした(1975年以降、欠測年あり。)

漁況

- ・1月、足摺岬沖のマルソウダ(メジカ)曳縄漁が好漁でした。
- ・3~4月にシラス(主にマイワシシラス)が好漁でした。
- ・4~5月に土佐湾中央部におけるカツオ曳き縄漁が不漁でした。
- ・4~5月にヨコワが好漁でした。
- ・5、6月に芸東海域(室戸岬周辺)定置網にゴマサバ当歳魚が大量入網しました。

【今後の見通し（平成17年8～12月）】

1. 黒潮

8月現在、C型流路の黒潮は、10月までこの状態で推移します。11月以降はD型流路を経てN型（直進型）へ移行すると予想されます。

四国沖では、足摺岬沖で「接岸」、室戸岬沖で「接岸」から「やや離岸」の状態が継続しますが、8月に九州南東沖で小蛇行が形成され、その東進にともない9月に足摺岬沖でも一時離岸します。

（根拠）

人工衛星による日本南方海域の海面高度データを利用した小蛇行の形成・発達・東進の予測手法によっています。

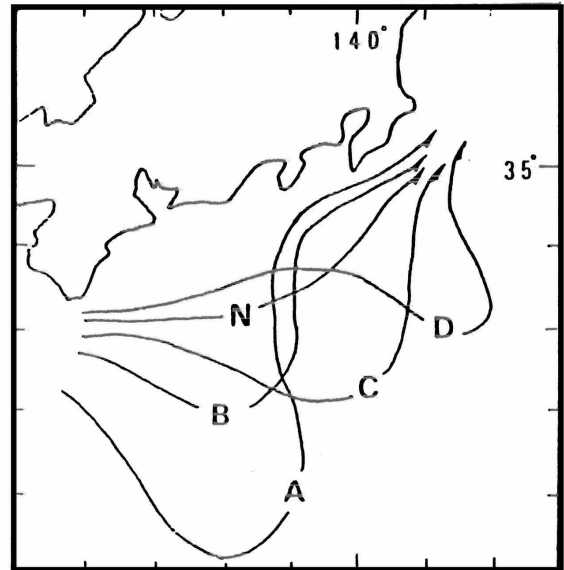


図3 黒潮の流型(吉田:1961、二谷:1969)

2. 沿岸の水温

土佐湾：「平年並み」から「高め」で推移する。

豊後水道東部海域：「平年並み」で推移する。

紀伊水道外域西部海域：「平年並み」から「やや高め」で推移する。

（根拠）

・高松地方気象台発表の「四国地方3か月予報」（6月23日発表、予報期間7～9月）によると、期間中の平均気温は「平年並み」か「高い」。

・神戸海洋気象台発表の「平成17年夏季の南日本海区の海面水温予報」（5月31日発表、予報期間7～9月）によると、南日本海区の海面水温は全般的に「平年並」と予想されている。

・近年、土佐湾の表面水温は高め傾向で推移している。

漁 況

Ⅰ サバ類(ゴマサバ及びマサバ)

【漁況経過(平成17年4月～平成17年6月)】

1 高知県

(1)宿毛湾の中型まき網による漁獲量は1,727トン(以下、漁獲量は期間中の合計を示します。)で、前年比215%、平年(以下、平年とは平成6年から平成15年の10年間の平均値を示します。)比107%と比較的好調でした。まき網漁獲物の体長測定結果では、全てがゴマサバで、魚体は平成16年生まれ(尾叉長25～32cm)が主体でした。

(2)定置網(窪津・加領郷・椎名3水揚地合計)による漁獲量は183トンで、低調であった前年(50.8ト)の3.6倍、平年(130ト)の約1.4倍と好漁でした。

定置網漁獲物の体長測定及び芸東地区3漁場(椎名、高岡、加領郷)の定置網入網調査等の結果では、95%以上がゴマサバで、600g/尾以上の大型高齡魚(3歳以上)の漁獲は減少しましたが、16年生まれの1歳魚(250～350g)及び17年生まれの0歳魚(100g/尾以下)主体の漁模様となりました。特に4～5月には芸東地区で平成16年生まれの1歳魚の大量入網が認められたほか、当歳魚(17年生まれ)も前年を大幅に上回る入網となりました。

(3)釣(立縄・多鈎釣等、清水・加領郷・室戸・甲浦4水揚地合計)による漁獲量は260トンで、不漁であった前年の56%、平年の79%と低調でした。また、漁獲の主体はゴマサバでマサバはほとんど認められませんでした。土佐清水市漁協での立縄漁獲物の体長測定結果では、ゴマサバの魚体は30～45cmの範囲でした。

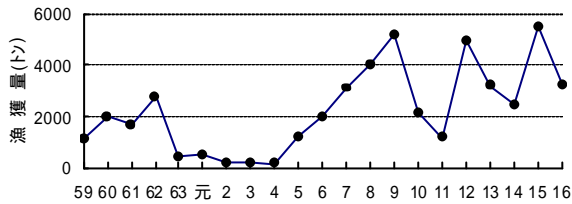


図 サバ類漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

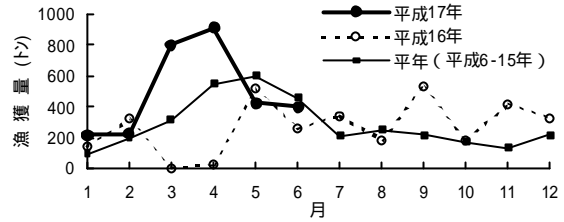


図 サバ類月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

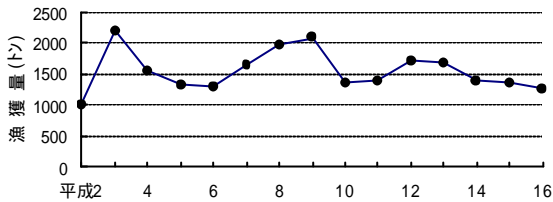


図 サバ類漁獲量の推移（清水・加領郷・室戸・甲浦：立縄等釣り）

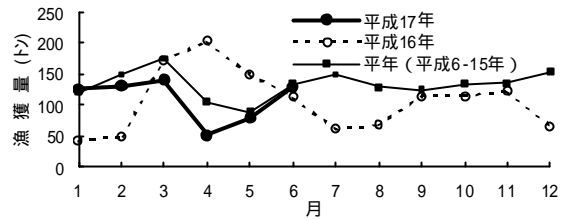


図 サバ類月別漁獲量の推移（清水・加領郷・室戸・甲浦：立縄等釣り）

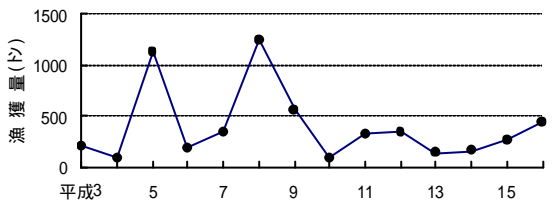


図 サバ類漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

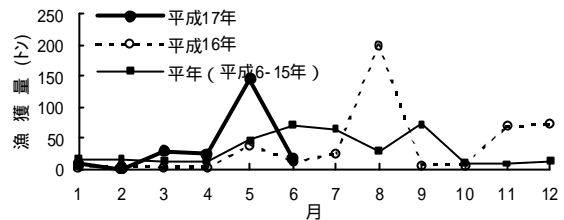


図 サバ類月別漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

2 周辺各県の経過

宮崎県：まき網（北浦、島浦、青島の3港）による平成17年4～6月の総漁獲量は2,685トンで、前年比650%、平年比289%（平成12年～平成16年の平均値）と高い水準で推移しました。

魚種はゴマサバで、30cm未満の平成16年生まれの1歳魚が主体となりました。

愛媛県：豊後水道では前年に引き続き南部を中心にゴマサバ主体の漁場が形成され、総漁獲量は1,835トンで、前年(2004年)、平年（昭和60年～平成16年の平均値）を上回りました。

和歌山県：紀伊水道外域の2そうまき網の4～6月の漁獲量は1歳魚(H16生まれ)のゴマサバ主体に950トンで、前年比457%、平年比121%の好漁でした。熊野灘定置網では4月にゴマサバ主体に漁がまとまり、高水準であった前年同期を下回ったものの平年を上回りました。

【漁況予測（平成17年8～12月）】

(1) 漁獲対象：平成17年生まれ及び平成16年生まれが対象となり、特に平成16年度生まれが主体となるでしょう。平成15年生まれ以上の高齢魚はわずかとなるでしょう。

(2) 来遊水準：

- ・ 宿毛湾周辺海域では、ゴマサバは平成17年生まれ及び平成16年生まれ主体の来遊で、好調であった前年を上回るものと考えられます。なお、海況条件が良好であれば、土佐湾西部海域に

大量に滞留していると思われる平成 16 年生まれ群の来遊も見込まれ、平年以上の好漁となる可能性も考えられます。

マサバの来遊は依然として低水準と思われます。

- ・土佐湾以東の海域では、ゴマサバ 1 歳魚(平成 16 年生まれ)の来遊が多く、期後半には 0 歳魚(平成 17 年生まれ)の来遊の可能性もあるため、前年並びに平年を上回るとは考えられますが 2 歳魚(平成 15 年生まれ)以上の来遊は少ないと考えられます。

マサバの来遊は引き続き低水準と思われます。

説明：

ゴマサバ：平成 17 年のゴマサバ太平洋系群の資源水準は中位、動向は横ばい傾向と評価されています。中央水産研究所の解析によれば、このうち平成 16 年生まれ群のゴマサバの資源量は平成 8 年生まれ群に次ぐ高い水準にあったこと、主漁場である関東周辺海域における漁獲尾数が少なかったことから、依然高い水準が保たれており多くの来遊が期待されることが報告されています。また、平成 17 年生まれ群は本県、宮崎県など太平洋南区では前年を上回る来遊が認められており、16 年生まれを下回るものの、高い資源水準の可能性のあることから、期後半の来遊も期待されます。一方、黒潮が離岸すると、釣サバの漁況が不調になる傾向がありますが、今期は黒潮の蛇行が解消し、本県地先では黒潮が概ね接岸傾向で推移するものと推定されます。16 年生まれ群及び 17 年生まれ群のゴマサバは四国沖合海域にも多く滞留しているものと思われ、先に述べた海況により、かなりの来遊が期待されます。なお、平成 15 年生まれ群はこれまでの調査や漁況の経過から資源水準は低いと考えられており、来遊はあまり期待できません。

マサバ：マサバ太平洋系群は平成 16 年度と異なり資源水準は依然として低位であるものの、動向は増加の傾向にあると考えられています。しかしながら伊豆諸島周辺海域以西では、来遊するサバ類のうちマサバの割合は低く、高知県海域も近年は同様の傾向です。平成 17 年春季に沿岸に来遊したマサバ幼魚の割合は前年に比べ増加していますが、ゴマサバに比べると極めて低い状況であることから、マサバの来遊はあまり期待できず、漁獲があっても散発的でしょう。

II マアジ

【漁況経過（平成 17 年 1 月～平成 17 年 6 月）】

1 高知県

(1)宿毛湾の中型まき網による漁獲量は 330 トンで、前年比 105%、平年比 58%でした。銘柄別にみると、150g/尾以上の「アジ」は 92 トンで、前年比 202%、平年比 83%でした。150g 未満/尾の「ゼンゴ」は 238 トンで、前年比 88%、平年比 52%とやや不調な漁模様でした。

魚体は、まき網漁獲物の体長測定結果から、3～6月 は前年発生群(16～19cm)が主体であったと思われます。

(2)定置網（窪津・加領郷・椎名3水揚地合計）による漁獲量は 315 トンで、前年比 142%、平年比 90%でした。

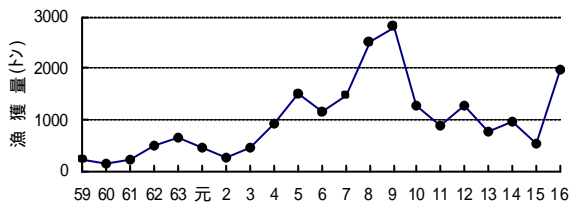


図 マアジ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

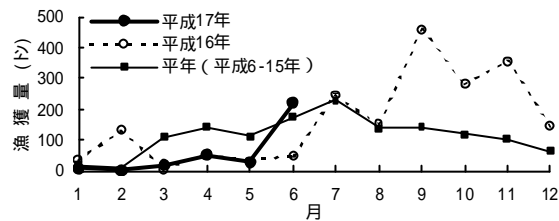


図 マアジ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

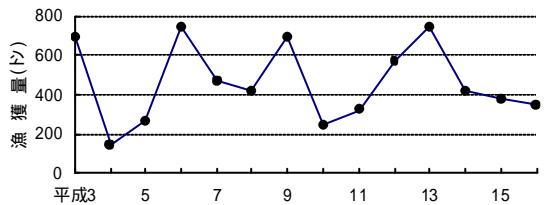


図 マアジ漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

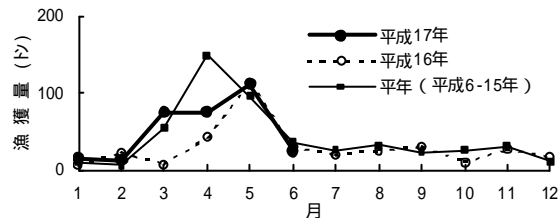


図 マアジ月別漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

2 周辺各県の経過

宮崎県：まき網（北浦、島浦、青島の3港）による平成 17 年 1～6月の総漁獲量は 1656 トンで、前年比 58%、平年比 132%（平成 12 年～平成 16 年の平均値）でした。

愛媛県：豊後水道では中部海域主体に漁場が形成され、総漁獲量は 1705 トンと前年（2456 トン）及び近年（1953 トン、平成 12 年～平成 16 年の平均値）を下回りました。

和歌山県：紀伊水道外域2 そうまき網（比井崎、御坊市、田辺計）の漁獲量は 715 トンで、前年比 58%、平年比 48%（平成元年～平成 16 年の平均値）と低調でした。

【漁況予測（平成17年8～12月）】

来遊量：

(1) 漁獲対象：0才魚（19cm以下、平成17年生まれ）、1才魚（20～24cm、平成16年生まれ）主体

(2) 来遊水準：

・宿毛湾周辺、土佐湾以東ともに前年並から前年を下回る見込みです。

説明：

マアジ太平洋系群の資源水準は中位で、動向は減少傾向にあります。

今季の主体となるマアジのうち、1才魚は、高知県では比較的多く来遊がみられたものの、他の南日本各地では前年を下回る水準で推移しています。また、0才魚の加入も南日本の各地で低い傾向にあります。2才魚以上は少ないでしょう。全体では前年並みから前年を下回る見込みです。

III マイワシ

【漁況経過（平成17年4月～平成17年6月）】

1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は68.1トンで、前年（13.2トン）を上回りましたが、平年（122.8トン）を下回りました。

(2) 定置網（窪津・加領郷・椎名3水揚地合計）による漁獲量は79.3トンで、前年（10.5トン）及び平年（61.3トン）を上回りました。

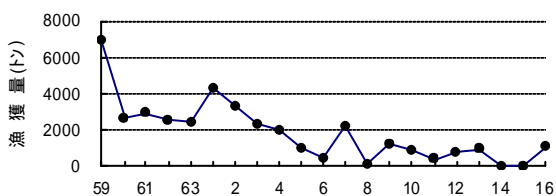


図 マイワシ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

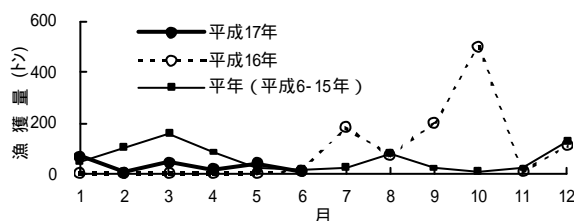


図 マイワシ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

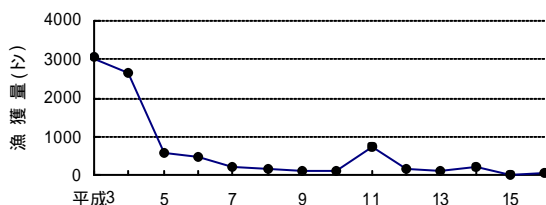


図 マイワシ漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

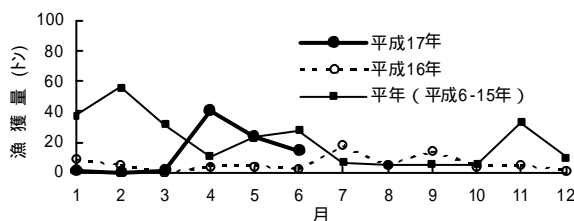


図 マイワシ月別漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

2 周辺各県の経過

宮崎県：4月から6月の総漁獲量は約3トンで混獲程度でした。

愛媛県：北部・中部ではほとんど水揚げはなく、南部で54トンの水揚げがありました。前年（平成16年）近年（平成12年～平成16年）平年（昭和60年～平成16年）と比較すると、低水準であった前年を上回りましたが、近年・平年は下回りました。

和歌山県：串本・南部町漁協の1そうまき網では、前年及び平年を下回りました。熊野灘定置網ではほとんど漁獲がありませんでした。0才魚を漁獲対象とする南部町漁協の棒受網では5-6月に前年及び平年を上回る漁獲があり、4-6月でも前年及び平年を上回りました。

【漁況予測（平成17年8～12月）】

(1) 漁獲対象：0才魚（平成17年生まれ）、1才魚（平成16年生まれ）主体

(2) 来遊水準：散発的な来遊で、好漁であった前年並から前年を下回ると思われる。

説明：

近年におけるマイワシの本県漁獲動向及び上半期のマイワシシラス来遊量が多かったことから、下半期のマイワシ来遊量は、好漁であった前年並か前年を下回ると予想されます。ただし、マイワシ太平洋系群の資源水準は過去20年では低位で、現在も依然として資源量は低水準のため、散発的な来遊と考えられます。

IV カタクチイワシ

【漁況経過（平成17年4月～平成17年6月）】

1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲は737.0トンで、前年（597.9トン）及び平年（330.4トン）を上回りました。銘柄別では幼魚「ドロ」は425.3トンで、前年（224.1トン）及び平年（95.1トン）を上回りました。未成魚・成魚の銘柄「タレ」は311.8トンで、前年（373.9トン）を下回りましたが、平年（235.3トン）は上回りました。

(2) 定置網（窪津・加領郷・椎名3水揚地合計）による漁獲量は102.8トンで前年（18.4トン）平年（50.5トン）を上回りました。

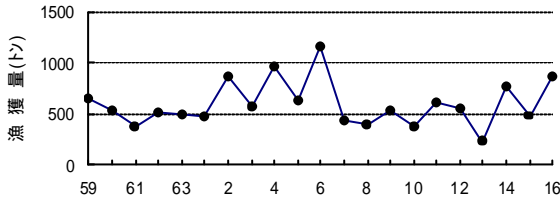


図 カタクチイワシ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

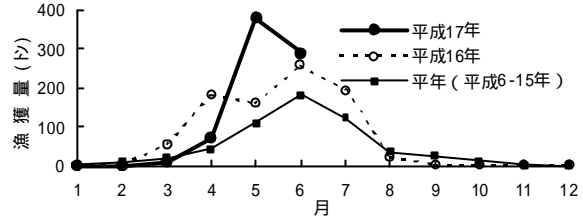


図 カタクチイワシ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

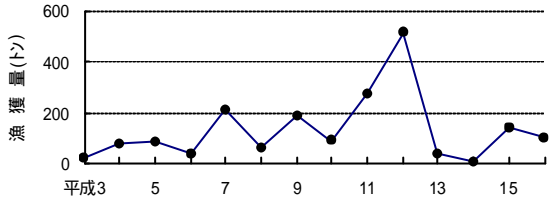


図 カタクチイワシ漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

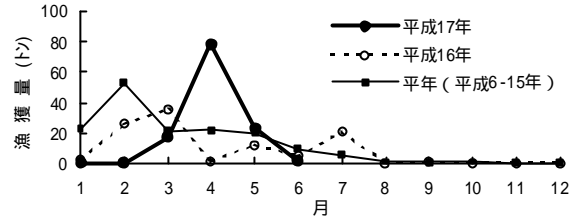


図 カタクチイワシ月別漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

2 周辺各県の経過

宮崎県：4月から6月の総漁獲量は602トンで、前年同期比10%、平年比10%と前年・平年を大きく下回りました。

愛媛県：カタクチイワシの水揚量は、北部6トン、中部16トン、南部91トンで南部主体に漁場が形成されていました。全体の水揚量は113トンで、高水準であった前年だけでなく、近年（平成12年～平成16年）、平年（昭和60年～平成16年）も下回りました。

和歌山県：漁獲対象魚種ではなく、熊野灘定置網でもほとんど漁獲がありませんでした。

【漁況予測（平成17年8～12月）】

- (1) 漁獲対象：0才魚（平成17年生まれ）、1才魚（平成16年生まれ）。
- (2) 来遊水準：前年を上回ると考えられます。

説明：

カタクチイワシ太平洋系群の資源水準は過去20年では高位にあり、動向は横ばい傾向にあります。また、近年における本県の漁獲動向及びカタクチシラスが出現し始める4月のシラス来遊量が多かったことなどから、下半期の来遊量は前年を上回ると予想されます。

V ウルメイワシ

【漁況経過（平成 17 年 1 月～平成 17 年 6 月）】

1 高知県

(1)宿毛湾の中型まき網による漁獲量は 808.7 トンで、前年（360.2 トン）及び平年（603.1 トン）を上回りました。

(2)定置網（窪津・加領郷・椎名 3 水揚地合計）による漁獲量は 94.5 トンで、前年（64.5 トン）及び平年（24.9 トン）を上回りました。

(3)宇佐漁協の多鈎釣漁（土佐湾中央部）による漁獲量は 104.0 トンで、前年（111.2 トン）及び平年（119.8 トン）をわずかに下回りました。

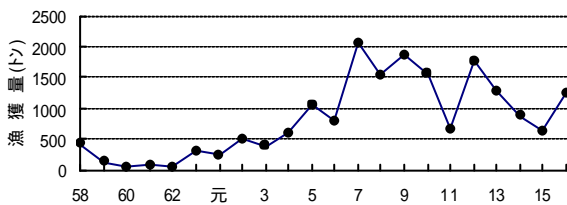


図 ウルメイワシ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

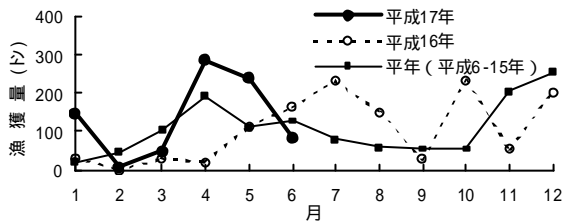


図 ウルメイワシ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

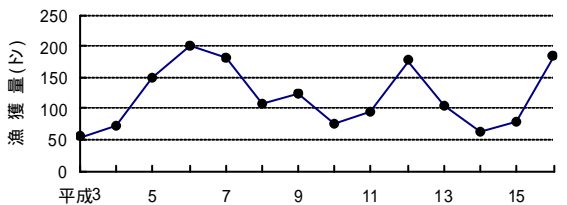


図 ウルメイワシ漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

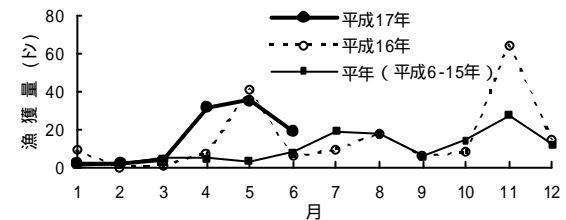


図 ウルメイワシ月別漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

2 周辺各県の経過

宮崎県：1月から6月の総漁獲量は 1,671 トンで、前年同期比 83%、平年比 94%と前年・平年を下回りました。3月は前年及び平年を大きく上回りましたが、4月から6月は前年及び平年を下回り、低調に推移しました。

愛媛県：北部・中部ではほとんど漁獲はなく、南部で 900 トンの漁獲がありました。前年、近年（平成 12 年～平成 16 年）、平年（昭和 60 年～平成 16 年）と比較すると、すべてを上回る高水準の漁獲となりました。

和歌山県：串本・南部町漁協の 1 そうまき網では、5-6 月に成魚の漁獲があったものの、前年及び

平年を下回りました。熊野灘定置網では6月を除きほとんど漁獲はありませんでした。0才魚を漁獲対象とする南部町漁協の棒受網では、前年を下回り、平年並の漁獲となりました。また、串本漁協の棒受網では、前年を上回り、平年並の漁獲となりました。

【漁況予測（平成17年8～12月）】

- (1) 漁獲対象：0才魚(平成17年生まれ)、1才魚(平成16年生まれ) 主体。
- (2) 来遊水準：前年を上回ると予測されます。

説明：

ウルメイワシ太平洋系群の資源水準は過去20年の変動の中で高位にあり、動向は横ばい傾向にあると考えられます。また、資源量の指標となる産卵量は平成15年、平成16年と高水準にあり、主な産卵場は土佐湾にあります。このように、ウルメイワシ太平洋系群の資源水準及び近年における本県の漁獲動向などから、下半期の来遊量は前年を上回ると予想されます。

VI シラス

【漁況経過（平成17年4月～平成17年6月）】

1 高知県

機船船曳網（安芸地区・春野町・錦浦・田野浦 7水揚地合計）による漁獲量は365.6トンで、前年（58.8トン）及び平年（195.1トン）を大きく上回りました。

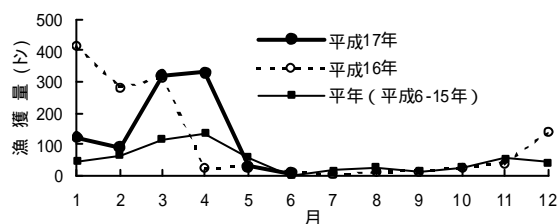
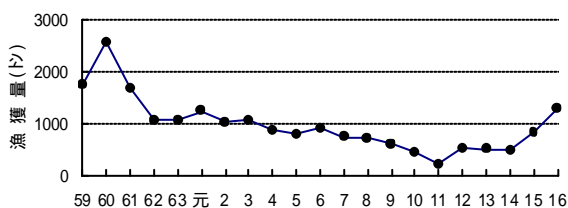


図 シラス漁獲量の推移（安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計7水揚地） 図 シラス月別漁獲量の推移（安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計7水揚地）

2 周辺各県の経過

宮崎県：4月から5月の総漁獲量は1,172トンで前年及び平年を上回りました。4月に1,106トンの漁獲があり、当該月においては過去20年間の集計で1番の豊漁となりました。

愛媛県：吉田町でのカタクチシラスの共販取扱量は、36トンでした。前年、近年（平成12年～平成16年）過去10年と比較しますと、過去10年平均は下回りましたが、近年、前年を上回りました。

【漁況予測（平成17年8～12月）】

- (1) 漁獲対象：0才魚（平成17年生まれ）
- (2) 来遊水準：前年並から前年を上回る。

説明：

本県では、下半期の漁獲は11、12月の漁獲に左右され、現段階ではその時期の予測は困難です。ただし、高知県周辺海域における親魚（カタクチイワシ、ウルメイワシ、マイワシ）の来遊水準は比較的高い水準にありますので、下半期のシラス来遊量は前年並から前年を上回ると予想されます。